

『音楽の友』2012年1月号

### Concert Reviews

安田里沙 p

安田は、東京藝大を経て同大学院修了後、ハンガリー国立リスト音楽院で研鑽を積む。国内外での入賞歴があり、現在東京藝大および札幌大谷大で後進の指導にあたる。オール・リストのプログラムで、モーツアルト（リスト編）「レクイエム」より、「即興的ワルツ」、《コンソレーション》より第3曲、《ハンガリー狂詩曲第2番》、《巡礼の年1年》より〈オーベルマンの谷〉、ヴェルディ（リスト編）「《リゴレット》パラフレーズ」、ベッリーニ（同）「《ノルマ》の回想」。何よりも安田の持つ資質の高さはヴィヴィッドな音の粒立ちに現れていた。それは歯切れよくかつ均質でみずみずしい響きを持つ。そして、確かな技巧で繰り出される感情の起伏は、疾風怒濤となって駆け抜け、彼女なりの確信と生気に満ちていた。総じて、19世紀的ヴィルトゥオジティが貫かれていたのは鮮烈であったが、〈オーベルマンの谷〉レント・アッサイでの内省的な踏み込みは、安田のもうひとつの持ち味。彼女の内省的な面をさらに聴いてみたい。（11月30日・王子ホール）

高山直也